

令和7年度

I 校内研究について
II 校内研修について



令和7年度

Ⅰ 校内研究 について



昨年度の校内研究について

令和6年度
校内研究主題

主体的に学び自分の思いを表現できる子
～PBL型授業の実践を通して～

Problem Based Learning 問題解決型の授業

Project Based Learning 課題解決型の授業

校内研究

校内研究 授業動画

Meet

リンクを作成

クラスコード
e3ynigi

期限設定
提出期限の指定、視聴は取りません
すべて表示

1 クラスへの連絡事項を入力

8025 1
2024/12/29

先日、庄子先生が「生成AIを使った授業」をやっていた方法で、(面白かったので)今年度の校内研究の動画を撮りました。意外にも観ができたので、是非観てみてください！！

【手順】
① ChatGPTに「動画の動画をアップロードして」の会話履歴を貼り付けてください。
② 出てきた動画をSLIDOに入れて、曲を作ってもらおう。
※視聴料も含めて、5分くらいで出来そうです！！

1 輝く先生たち (前半) .mp4 動画

1 輝く先生たち (後半) .mp4 動画

1 クラスのコメントを見る

8025 1
2024/12/17

4-4 学習活動「自分の体のことを考えて食事しよう」
12月17日(火) 3時間目 伊藤先生

1 伊藤先生授業.mp4 動画

1 クラスのコメントを見る

8025 1 2024/12/17

子どもたちに給食のアンケートをとって、子どもたちの実態から始めるのはいいですね。『給食を残さない人が7人しかない！』という驚きの事実。そして理由を見ていくと「苦手な食べ物があから」が理由の第一位！残したいもの、サラダ、ししゃも、ゼリー・・・アンケートの結果を聞きながら、「あ一分から1分から！」と子どもたちとどろんどろん授業にのめり込んでいくのがわかります。その後の陸内さんの話も分かりやすい！来機士が言っていると距離感が近い感じがしました。みんなにとって共通な給食を題材にすることによって、みんなで話し合える場ができていいなあと思いました。食べ方の振り返り、視覚的に表すのが分かりやすい。1時間、子どもたちが夢中になって観るに取って、伊藤先生のクラス、雰囲気がいっぱいと思いました。さすが生活指導主任！！自分の学習経験の工夫もいろいろ知りたいです。大トリお疲れ様でした！！

1 クラスのコメントを見る

5480 1
2024/12/12

69社会「朝晩の新しい朝づくり」12月11日(水) 4時間目 授業利川

1 IMG_0242.MOV 動画

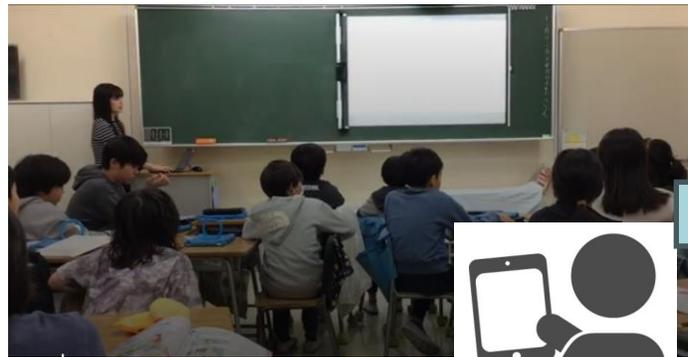
1 クラスのコメントを見る

8025 1 2024/12/15

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の深化・発展させるためには、一人一人が「個の研究」を徹底して取り続けることが大切であると思います。個の研究を深めた子は自然と伝えたい。他の子の進歩も知りたくなるので、必然的に協働的な学びを求めようになるそうです(文科省より)。本稿では、協働的な学びを深める場を公開していますが、協働的に伝え合う子どもたちの姿を見ていると、現時点での「個の研究」がめまぐるしく充実しているんだなあと思いました。その後の、動画を見る時の子どもたちのメモを覗いて！息を呑んで、川島先生の熱量に負けず、子どもたちも熱心に学ぶ姿に驚きました。Kafootを使ったことがない方は、授業の後半部も必要です。

1 クラスのコメントを見る

一人一実践



小グループで協議 (授業を観れない場合は動画視聴)



生成AIを用いた 質的研究法

成果と課題・仮説生成

研究授業の成果(から一部抜粋) 学びの深まり

○誤答(ミスコンセプション)や多様な考えが議論や葛藤を引き起こし、学びが深まる場面が見られた。

○子どもたちにとって切実な課題(単元の目的の明確化)が、課題解決に向けた探究的な学びを促進した。

年間を通しての成果
自分の思いを言語化できる
子どもが増えてきた。

学校全体の成果と課題

成果

1. 学びの深まり
 - 誤答(ミスコンセプション)や多様な考えが議論や葛藤を引き起こし、学びが深まる場面が見られた。
 - 子どもたちにとって切実な課題(単元の目的の明確化)が、課題解決に向けた探究的な学びを促進した。
2. 多様な指導アプローチ
 - 各教員の授業における特色が表れ、以下のような多様な指導が実践された。
 - ・ 体験的な学び: (たくさんのおもちゃを使う等)手を使った活動や自由な発言の場が学習効果を高めた。
 - ・ 目的意識の明確化: 活動における具体的な目標設定(おもちゃを作る等)が意欲を向上させた。
 - ・ ICTの活用: 児童の考えを共有し、視覚的・動的な学びを実現した。
 - ・ 切実な課題の設定: 「自分の考えた献立が給食になる」「学校のけがを減らす」などの実践に基づく課題が学習を「自分ごと」にする動機づけとなった。
3. 個別最適化と協働学習の融合
 - 多様な学び方が準備され、児童一人ひとりが最適な学びを選択する仕組みが整えられた。
 - グループ活動や発表を通じて、協働的な学びが深化した。
4. 創造的な教材と方法の活用
 - オリジナル教材、また教師の深い知識(種について伝える等)を伝達することにより、児童の興味・関心が高まった。

課題

1. 葛藤を生む場面づくりと進行管理
 - 葛藤や議論を促進する一方で、適切な進行管理や議論の深掘りに課題が残る。
(例: 条件の多さや説明の長さが学習時間を圧迫する。)
2. 指導の多様性がもたらす課題
 - 教員の特色を活かした指導が多様であるため、児童間で学びの成果にばらつきが生じる。

課題

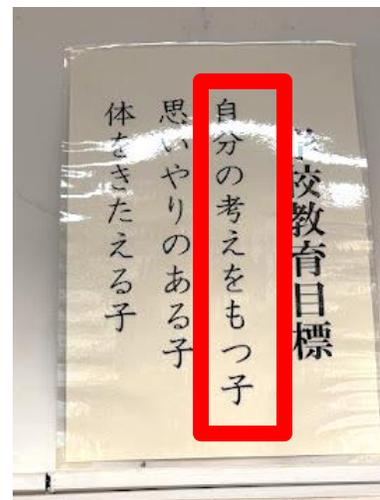
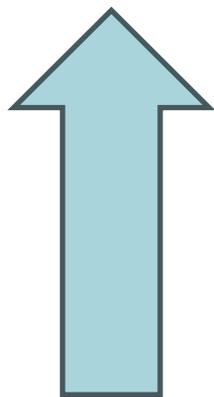
自分の思いを表現できる子は増えているが、**考えが深まっている**かあやしいところがある。

令和7年度 校内研究主題

**主体的に学び
考えを深める子の育成**

令和6年度
校内研究主題

**主体的に学び自分の思いを表現できる子
～PBL型授業の実践を通して～**



**問題・課題を自分事にすることが大切
(研究の成果を元に！)**

**主体的に学び自分の思いを表現できる子
考えを深める子を育てために
PBLの枠組みを広げた方がよい！**

質的研究法としての仮説生成

1. 仮説 1: 学びを深化させる鍵は、児童が「自分ごと」として捉えられる課題設定にある。
 - 実例: 給食の献立作成や、学校生活を改善するアイデアを考える活動が意欲を引き出した。
2. 仮説 2: PBL 型学習では、自由度と指導の枠組みの適切な調整が学習成果を左右する。
 - 自由すぎると進行が停滞し、条件が多すぎると発想力が制限される。
3. 仮説 3: ICT や体験型教材の活用が、学習意欲と成果を向上させる。
 - 視覚的・触覚的な刺激が、児童の集中力や理解度を高める。
4. 仮説 4: 個別最適化された学習環境は、児童の多様性に応える学びを促進する。
 - 各児童が自分に合った進め方を選べることで、全体の学びの質が向上する。
5. 仮説 5: 教員の特色ある指導法の共有が、学校全体の教育力向上につながる。
 - 協議会や授業研究を通じた成功事例の共有が、教員全体のスキルアップを促進する。

**授業研究や協議会を通じた
成功事例の共有が
教員全体のスキルアップ**

PBL「問題解決・課題解決」

個別最適な学び

自由進度

ICT

体験的な学び

**教科横断的な学び
(2教科以上を組み合わせる)**

特別支援(若木)

学校評価・校内研究の評価

4. 来年度の校内研究で、取り組みたい方法を教えてください。（複数選択可）

22件の回答



研究授業を行わない人が校内研修の中で実践を発表する。

研究授業の時には、動画撮影を行い、協議会に参加できなかった実践も視聴できるようにする。

教員一人一人が自分事として！
みんなが得意分野で！

研究授業グループ

問題解決・課題解決(PBL)

個別最適な学び

自由進度

ICT

体験的な学び

教科横断的な学び
(2教科以上を組み合わせる)

特別支援教育

小人数グループで授業を考える
1回の研究授業で、2, 3グループ実践
観察者は1つの協議会に参加する。

研究授業グループ

問題解決・課題解決(PBL)

個別最適な学び

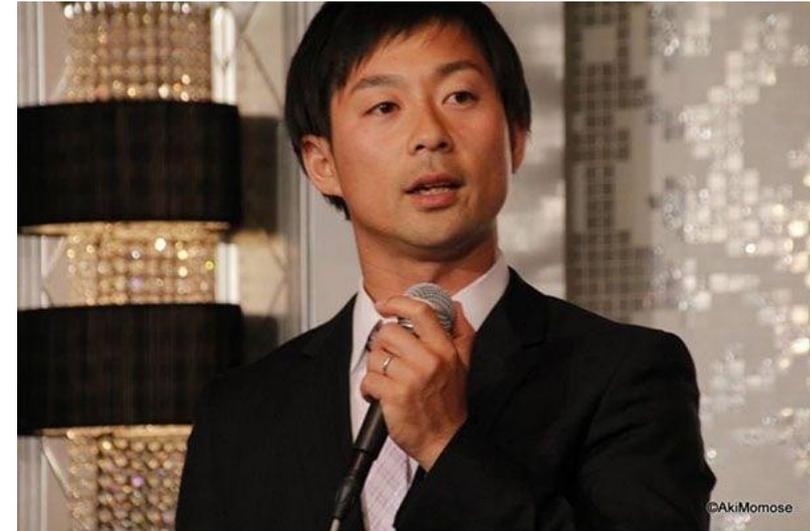
自由進度

ICT

体験的な学び

教科横断的な学び
(2教科以上を組み合わせる)

特別支援教育



講師:庄子寛之先生



ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンター 主任研究員

- ・元東京都公立小学校 指導教諭 専門:道徳
- ・文科省次期学習指導要領のあり方における検討会議 特別委員
- ・2019U19ラクロス女子日本代表監督
- ・元学研教科書編集委員(道徳)
- ・元文科省がん教育ワーキンググループ委員
- ・元みずほ銀行金融教育プロジェクト委員
- ・福知山市 三芳町 三次市 玖珠町 湖南省 教育アドバイザー
- ・新刊「声かけの正解」(ダイヤモンド社)など



主体的に学び 考えを深める子の育成

「学んだことを人生や社会に生かそうとする力」
「未知の状況にも対応できる力」
「実際の社会や生活で生きて働く力」 (文科省)

内容ベース
(コンテンツ・ベースト)

資質・能力ベース
(コンピテンシー・ベースト)

研究授業グループ

問題解決・課題解決(PBL)

個別最適な学び

自由進度

ICT

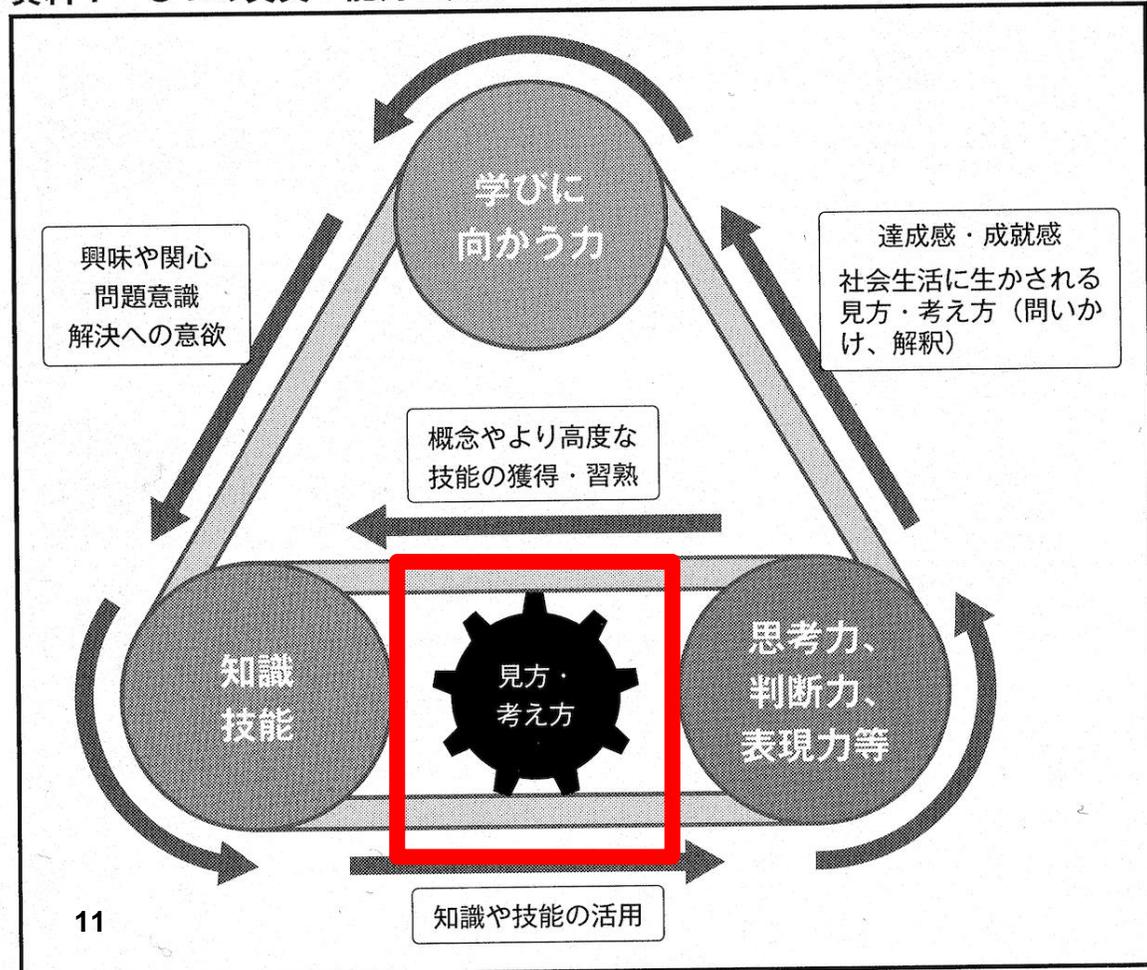
体験的な学び

教科横断的な学び
(2教科以上を組み合わせる)

特別支援(若木)

各教科等の特質に応じた見方・考え方も大切！！

資料1 3つの資質・能力と見方・考え方との関係



教科等	見方・考え方
国語 「言葉による見方・考え方」	【小・中学校】 言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること (根拠：小【中】学校学習指導要領解説 国語編)
社会 「社会的な見方・考え方」	【小学校】 ・社会的現象の見方・考え方 社会的現象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること (根拠：小学校学習指導要領解説 社会編) 【中学校】 ・社会的現象の地理的な見方・考え方（地理的分野） 社会的現象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること ・社会的現象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野） 社会的現象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること ・現代社会の見方・考え方（公民的分野） 社会的現象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること (根拠：中学校学習指導要領解説 社会編)
算数 数学 「数学的な見方・考え方」	【小学校】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること (根拠：小学校学習指導要領解説 算数編) 【中学校】 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること (根拠：中学校学習指導要領解説 数学編)
理科 「理科の見方・考え方」	【小・中学校】 「見方」 「エネルギー」を柱とする領域 主として量的・関係的な視点で捉えること 「粒子」を柱とする領域 主として質的・実体的な視点で捉えること 「生命」を柱とする領域 主として多様性と共通性の視点で捉えること 「地球」を柱とする領域 主として時間的・空間的な視点で捉えること 「考え方」 比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること (根拠：小【中】学校学習指導要領解説 理科編)
生活 「身近な生活に関わる見方・考え方」	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする (根拠：小学校学習指導要領解説 生活編)
音楽 「音楽的な見方・考え方」	【小学校】 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること (根拠：小学校学習指導要領解説 音楽編) 【中学校】 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること (根拠：中学校学習指導要領解説 音楽編)

教科等	見方・考え方
図画工作 美術 「造形的な見方・考え方」	【小学校】 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと (根拠：小学校学習指導要領解説 図画工作編) 【中学校】 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと (根拠：中学校学習指導要領解説 美術編)
家庭 技術・家庭 「生活の営みに係る見方・考え方」	【小・中学校】 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること (根拠：小学校学習指導要領解説 家庭編、中学校学習指導要領解説 技術・家庭編)
技術・家庭 「技術の見方・考え方」	生活や社会における事象を、技術との関わりとの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること (根拠：中学校学習指導要領解説 技術・家庭編)
体育 保健体育 「体育の見方・考え方」	【小・中学校】 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること (根拠：小学校学習指導要領解説 保健体育編、中学校学習指導要領解説 保健体育編)
体育 保健体育 「保健の見方・考え方」	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること (根拠：小学校学習指導要領解説 体育編、中学校学習指導要領解説 保健体育編)
外国語活動 外国語 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」	【小・中学校】 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること (根拠：小学校学習指導要領解説 外国語編、外国語活動編、中学校学習指導要領解説 外国語編)
特別の教科 道徳 「道徳における見方・考え方」	様々な事象を、道徳的価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること ※（ ）内は中学校のみ (根拠：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について【答申】小【中】学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編)
総合的な学習の時間 「探究的な見方・考え方」	【小・中学校】 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方 (根拠：小【中】学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編)
特別活動 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」	【小・中学校】 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること (根拠：小【中】学校学習指導要領解説 特別活動編)

研究授業グループ

問題解決・課題解決(PBL)

個別最適な学び

自由進度

ICT

体験的な学び

教科横断的な学び
(2教科以上を組み合わせる)

特別支援教育

研究授業を観る視点

主体的に学んでいるか？

考えを深めているか？

各教科等の特質に
応じた見方・考え方を
働かせているか。

関連付けながら
学んでいるか。

協議会で
どこで？どのように？なぜ？
こうすれば・・・等 話し合う

授業改善に向けた『学習者』の視点

- 学ぶことに興味や関心を持つ
- 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける
- 見通しをもつ
- 粘り強く取り組む
- 自己の学習活動を振り返って次につなげる



授業改善に向けた『授業者』の視点

- 既習事項を振り返る
- 具体物を提示して引きつける
- 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する
- 子供が自らめあてをつかむようにする
- 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる
- 子供が自分の考えを持つようにする
- 子供の思考を見守る
- 子供の思考に即して授業展開を考える
- 子供の考えを生かしてまとめる
- その日の学びを振り返る
- 新たな学びに目を向けさせる

授業改善に向けた『学習者』の視点

授業改善に向けた『授業者』の視点

対話的な学び

- 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める
- 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- 先哲の考え方を手掛かりに考える

- 思考を交流させる
- 交流を通じて思考を広げる
- 協働して問題解決する
- 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す

深い学び

- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる
- 知識を相互に関連付けてより深く理解する
- 情報を精査して考えを形成する
- 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

- 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする）
- 単元や各授業の目標を把握する
- ねらいを達成した子供の姿を具体化する
- 教材の価値を把握する
- 単元及び各時間の計画を立てる
- 目標の達成状況を評価する

研究方法について

量的研究法

- 比較「A指導法とB指導法の効果の比較」
- 実態調査「分からない問題があったら、自分で考える。」子どもが○%いる。
- 仮説検証・・・○○の手立てを行うことで、□□するだろう。

質的研究法

「○○の手立てを行うことで□□する子が○%増えた。」って本当？発達段階やその他の要因は考慮に入れなくて良いの？

ある子どもは上がって、ある子どもは下がって、平均○%上がったで良いの？

「なぜAの子は上がって、Bの子は下がったの？」という数値で表されない重要なところに焦点を当てることができない。

質的研究法

一般的に、観察したものを文章として記録していき、
事実を明らかにしていく方法

量的研究法と大きく違うのは、仮説検証を行うことが量的研究法で、**質的研究法**は様々な具体的な事実を基に「○○になりそうだ。」と仮説を作る（仮説生成）ことがゴールになる。

研究授業を観る視点

主体的に学んでいるか？

考えを深めているか？

各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせているか。

関連付けながら学んでいるか。

協議会で
どこで？どのように？なぜ？
こうすれば・・・等 話し合う

校内研究 スケジュール

4月7日(月)	今年度の校内研究・校内研修について	
5月21日(水)	校内研修・宿題・評価 について	+ 指導案検討
6月25日(水)	指導案検討	
7月16日(水)	校内研修 学級経営・生活指導について	
9月17日(水)	指導案検討	
10月16日(木)	研究授業	
11月26日(水)	研究授業	
12月10日(水)	校内研修 授業について	
1月28日(水)	研究授業	
3月4日(水)	庄子先生の講演	

令和7年度 Ⅱ校内研修について



校内研修 スケジュール

4月7日(月)	今年度の校内研究・校内研修について	
5月21日(水)	校内研修・宿題・評価 について	+ 指導案検討
6月25日(水)	指導案検討	
7月16日(水)	校内研修 学級経営・生活指導について	
9月17日(水)	指導案検討	
10月16日(木)	研究授業	
11月26日(水)	研究授業	
12月10日(水)	校内研修 授業について	
1月28日(水)	研究授業	
3月4日(水)	庄子先生の講演	

令和7年度 校内研究主題

**主体的に学び
考えを深める子の育成**

研究授業グループ

問題解決・課題解決(PBL)

個別最適な学び

自由進度

ICT

体験的な学び

教科横断的な学び
(2教科以上を組み合わせる)

特別支援教育